

(1) 自殺の現状と関連する状況について

★自殺統計で用いられる値の解説（速報値、暫定値、確定値の違い）

【速報値】

- ・ある月の月末時点による自殺者数として、翌月上旬頃に公表される値です。集計項目は、月別、男女別、都道府県別の自殺者数。
- ・速報値であり、自殺者の職業や自殺の原因・動機別等の情報はありません。
- ・捜査中の事案や月末頃に発生した事案などで死因が自殺と特定できていない場合には、速報値への計上がなされませんので、速報値は最終的な確定値と比較して値が少なくなる傾向にあります。

【暫定値】

- ・ある月の翌月上旬頃に報告された自殺者数として、下旬頃に公表される値です。集計項目は速報値と同様に、月別、男女別、都道府県別の自殺者数です。
- ・「地域における基礎資料」として、厚生労働省において、自殺の実態把握として地方公共団体職員等が利用することを目的に、警察庁から提供された自殺統計原票に基づくデータの加工統計を作成しており、職業別、原因・動機別などの項目で集計をしています。

【確定値】

- ・ある年の確定した自殺者数として、翌年3月中旬頃に公表される値です。速報値及び暫定値と同様に、月別、男女別、都道府県別の自殺者数。これ以外に、職業別や原因・動機別自殺者数などを集計しています。

ア 自殺統計から

◆ 自殺者数（出典 厚生労働省ホームページ ※速報値）

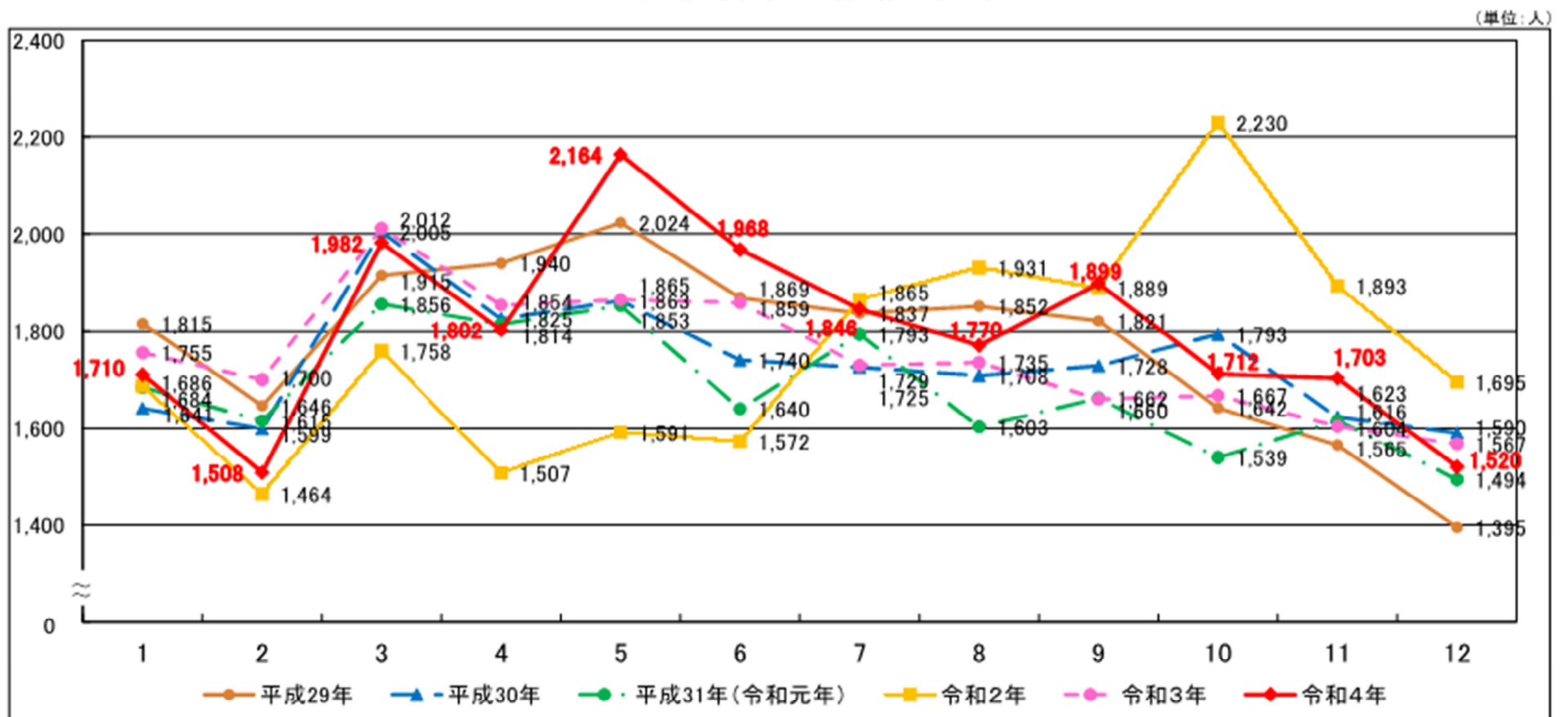
- ・月別自殺者数の推移をみると、令和4年（赤）は令和3年（ピンク）と比較して、4月までは前年を下回っていましたが、5月から11月までは前年を上回って推移しています。
- ・年間累計自殺者数については、令和4年は21,584人で、令和3年より577人増加しました。

令和5年1月20日
厚生労働省自殺対策推進室

警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等

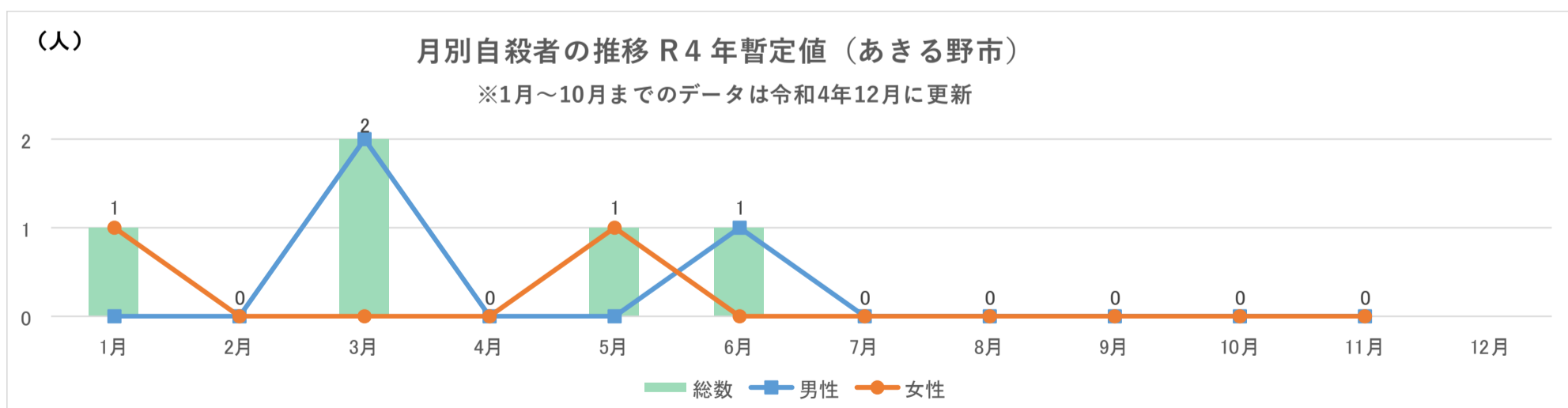
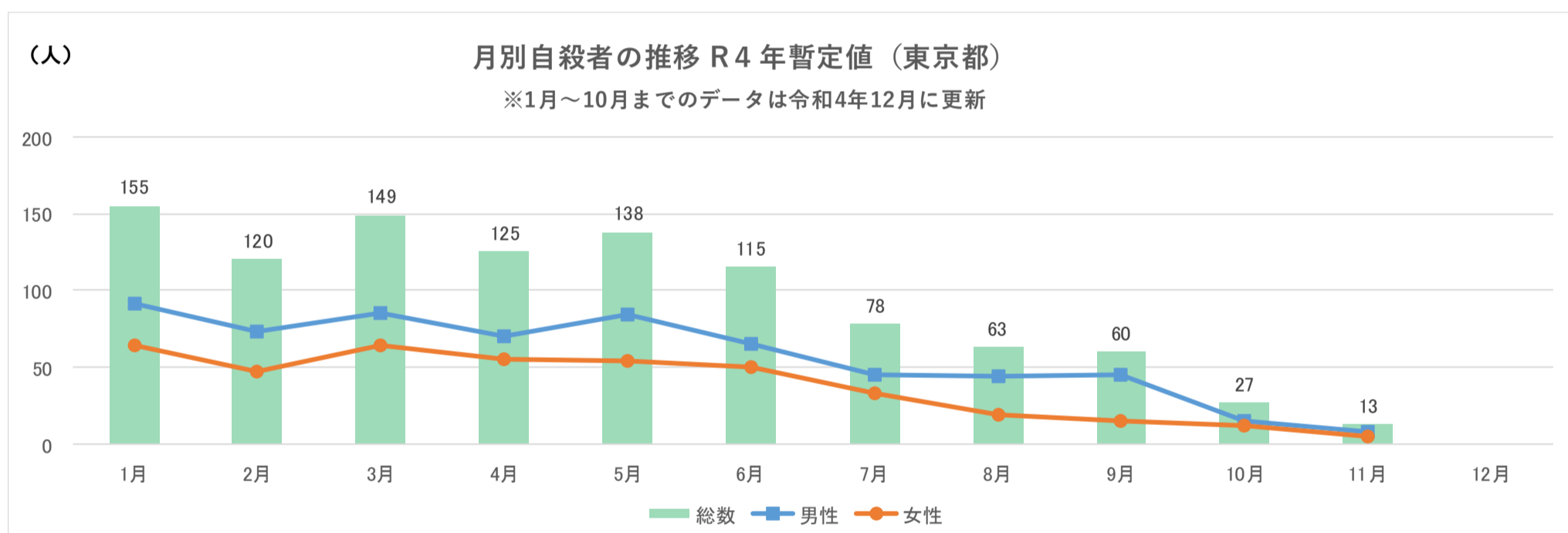
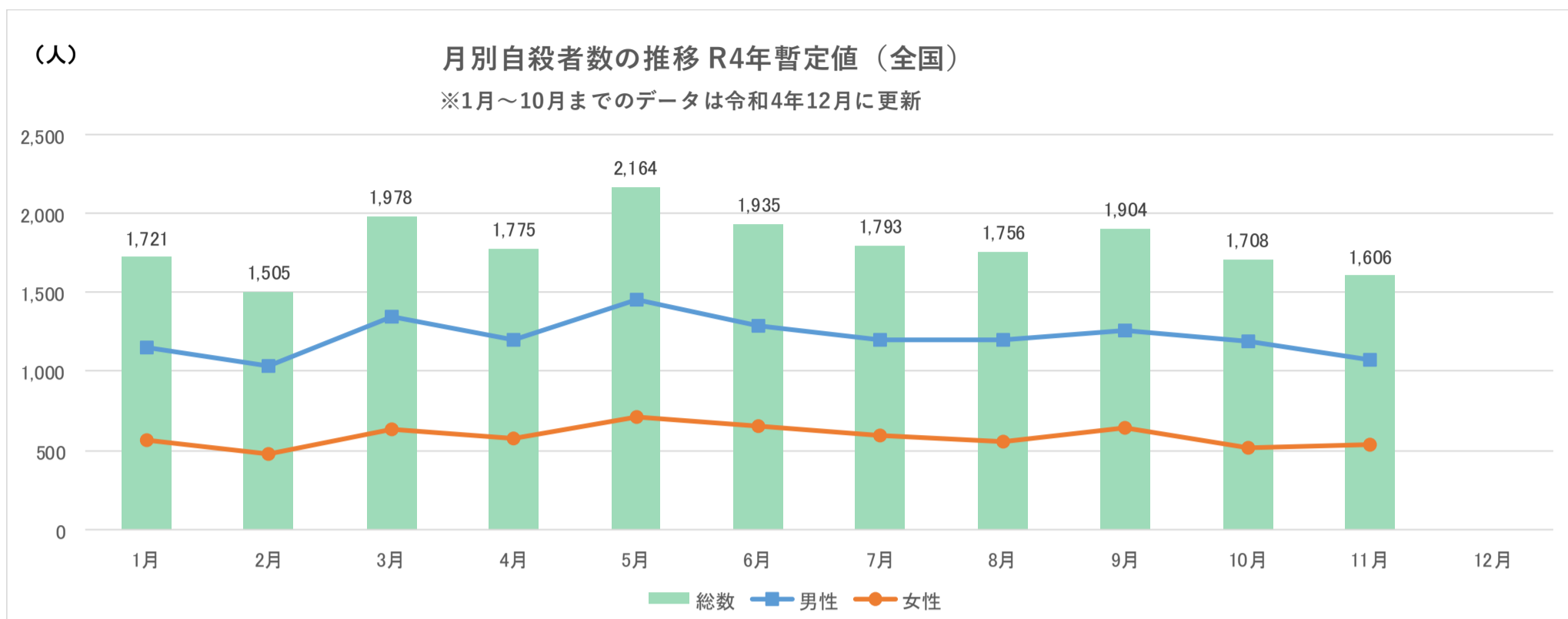
- 令和4年12月の自殺者数(1,520人:速報値)は、対前年同月比47人(約3%)減。
- 令和4年1-12月の累計自殺者数(21,584人:速報値)は、対前年同年比577人(約2.7%)増。

月別自殺者数の推移(総数)



◆ 令和4年（1月～11月※暫定値）月別自殺者数 （出典：地域における自殺の基礎資料）

・全国の月別自殺者数で最も多かったのは5月、東京都は1月でした。あきる野市は3月の2人でした。



イ 地域自殺実態プロフィールから

- ・地域自殺実態プロフィールとは、国が地方公共団体の地域自殺対策計画の策定を支援するために、すべての都道府県及び市長村の自殺の実態を分析したものです。
- ・過去5年分を累計した数値が掲載されています。

◆ 地域の主な自殺者の特徴

- ・過去10年間の自殺実態の推移を比較するため、東京都とあきる野市は2017年プロフィール（平成23年～平成28年）と2022年プロフィール（平成29年～令和3年）を掲載しました。（全国は2017年プロフィールが存在しないため未掲載）

【全国】

<平成29年～令和3年>2022年プロフィール

自殺者の特性上位	自殺者数 (H29～R3年合計)	割合 (%)	背景にある主な自殺の危機経路（代表的一例）
1位:男性 60歳以上無職同居	12,134	11.7%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2位:男性 40～59歳有職同居	10,449	10.1%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3位:女性 60歳以上無職同居	9,124	8.8%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性 60歳以上無職独居	7,584	7.3%	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
5位:男性 20～39歳有職同居	6,247	6.0%	職場の人間関係/仕事の悩み（ブラック企業）→パワハラ+過労→うつ状態→自殺

【東京都】

- ・東京都の特性として、過去10年間（平成23年～令和3年間）において女性40～59歳無職同居が5位になっています。
- ・2017年プロフィール（平成23年～平成28年の5年間）と2022年プロフィール（平成29年～令和3年の5年間）を比較すると、特性上位の自殺者は882人減少しています。また、特性1位と2位、3位と4位の順位が逆転しています。

<平成23年～平成28年>2017年プロフィール

自殺者の特性上位	自殺者数 (H23～H28年合計)	割合 (%)	背景にある主な自殺の危機経路（代表的一例）
1位:男性 60歳以上無職同居	1,111	8.7%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2位:男性 40～59歳有職同居	1,048	8.2%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3位:女性 60歳以上無職同居	926	7.3%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性 60歳以上無職独居	850	6.7%	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
5位:女性 40～59歳無職同居	788	6.2%	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺

<平成29年～令和3年>2022年プロフィール

自殺者の特性上位	自殺者数 (H29～R3年合計)	割合 (%)	背景にある主な自殺の危機経路（代表的一例）
1位:男性 40～59歳有職同居	941	8.6%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
2位:男性 60歳以上無職同居	798	7.3%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
3位:男性 60歳以上無職独居	756	6.9%	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
4位:女性 60歳以上無職同居	712	6.5%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5位:女性 40～59歳無職同居	634	5.8%	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺

【あきる野市】

- ・2022年プロフィールにおけるあきる野市の特徴として、男性60歳以上有職同居が上位に入っています。また上位の特徴として、いずれも同居家族がいることが挙げられます。
- ・2017年プロフィール（平成23年～平成28年の5年間）と2022年プロフィール（平成29年～令和3年の5年間）を比較すると、男性60歳以上無職同居の割合が増加し、順位が逆転しています。

<平成23年～平成28年>2017年プロフィール

自殺者の特性上位	自殺者数 (H23～H28年合計)	割合 (%)	背景にある主な自殺の危機経路（代表的一例）
1位:男性40～59歳有職同居	9	13.2%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
2位:男性60歳以上無職同居	8	11.8%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
3位:女性60歳以上無職同居	8	11.8%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性20～39歳無職同居	6	8.8%	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺/ ②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
5位:男性20～39歳有職同居	6	8.8%	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺

<平成29年～令和3年>2022年プロフィール

自殺者の特性上位	自殺者数 (H29～R3年合計)	割合 (%)	背景にある主な自殺の危機経路（代表的一例）
1位:男性60歳以上無職同居	12	17.1%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2位:男性40～59歳有職同居	9	12.9%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3位:女性60歳以上無職同居	8	11.4%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性60歳以上有職同居	5	7.1%	①【労働者】身体疾患+介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→自殺/ ②【自営業者】事業不振→借金+介護疲れ→うつ状態→自殺
5位:男性20～39歳有職同居	5	7.1%	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺